

1 派遣期日 令和5年8月11日（金）

2 派遣先 六本木グランドタワー
東京都港区六本木 3-2-1

3 研修内容 『磨け、授業力』

(1)国語科プロ授業体験 2年生国語科「たんぼぼのちえ」

授業者：中野裕己先生（新潟大学附属新潟小学校）

①教科を渡る学び ～生活科「野菜を育てよう」の学習とのつながり～

- ・子ども達が夢中になっていることと国語科の学びを重ねる。
- ・生活科における視点・観点で文章を表現する。
- ・情報活用能力「収集、分類、整理、分析」との関連を図る。
- ・分類してまとめる。（タブレットの利用）

②教材文の読み取りの流れ

ア 作者は誰か

イ 作者が文章を書く前に行ったことは何か（観察）

ウ 何を観察したか

エ 自分達が見ていた視点以外に何を作者は見て表現していたか

文章内にある「特別」を見付ける。

③重要な語や文を考えて選ぶための手立て

- ・植物の様々な部位に着目させる読み方
「じく」に注目した文章の抜き出しから、「おれる」ではなく「たおれる」「起き上がる」という表現から「あたらしい仲間を増やして行く」という作者の解釈主張へとつながる。
- ・全文プリント、拡大教材文を活用することで、言葉を確認する働きかけをする。
- ・子ども達の「普通」と対比することで、文章筆者の「特別」が見えてくる。

④深い探求的な学びの活動を豊かな学びへ

- ・学びと問いからどこに着目して学習を進めるかを検討する。

(2)個別最適な学びブース（体育科実践）

系統性がわかれば、all happy! ～ボール運動（「ゴール型」の低・中・高）

指導者：齋藤直人先生（筑波大学附属小学校）

①児童の運動技能の定着

- ・短時間ドリルの積み重ねで技能の定着を図る。
- ・基本となる『ボールを投げる・捕る』セットでの学習を単元に組み込む。
ア 「相手の捕りやすいところに投げる・ボールを胸でキャッチする」
イ 「なるべく遠くに投げる・遠くから投げられたボールを落とさず捕る」
ウ 「相手の捕りにくいところへ強く投げる・強く投げられたボールを捕る、避ける」
「ボール操作+ボールを持たないときの動き＝ボール運動系」を重視

②教材・教具の具体例

- ・3 on 1、4 on 3、4 on 2 ゲーム
攻撃側に数的有利な状況をつくり、ボール運動の醍醐味であるシュートをたくさん打つ経験を積み重ねる。

・はしごドッジボール（2対2）図1

外野●2人、内野○2人の4人

2分程度で内外野交替する。
児童の実態に応じた場の選択

・コーンボール（4体4）図2

攻撃4人、守備2人

パスをつないでコーンに当てる。

時間制で攻守交替

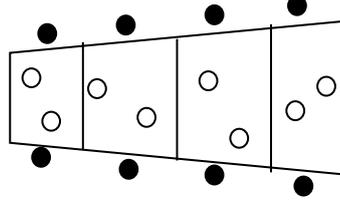


図1

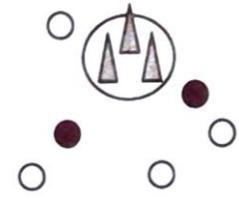


図2

(3)算数科プロ授業体験 5年生算数科「単位量あたりの大きさ」

授業者：森本隆史（筑波大学附属小学校）

①算数科の教材研究における意識

- ・引き出す…本気さ、やる気、考え、笑顔、迷い、表現、かかわり合い、感動等
意図したものを引き出すために何ができるか考え、授業を組み立てる。
- ・教師の判断…教材の見せ方、問い方の重要性
授業中に児童の声をどう吸い上げ、広げるかを検討する。

②授業の実践（第1時 導入段階）

ア問題提示「金魚の気持ちを考えよう」

18匹の金魚を30L、20L、10Lの水槽に分ける活動

算数科に苦手意識のある児童にも発言しやすいような問題を提示

イ教師の例示から児童の考えを引き出す

不公平な分類の仕方を提示し、何を条件に揃えるとよいか、児童の思考を揺さぶる
ウ「1単位量あたりの大きさを揃える」という本時の目指す地点へと導いていく

(4) 算数科授業づくりワークショップ

4年生「割合」授業づくり

- ・導入部分5分の展開を考え、各班で発表、共有を図る。
- ・教科書教材を基に、児童にとって身近で興味のある問題につなげる。
- ・設定された数、量は適切であるかを判断する。

(5) クロージング全体会

4 感想

今回の『磨け、授業力』における研修は、全国各地から同じ志や悩みを抱えている先生方が一堂に会し、日々専門的な研究に取り組んでおられる授業者の先生方による、情熱的で大変ユニークな授業を間近で体験することができ、とても有意義な研修となりました。

特に、算数科教育に関する授業づくりの視点や考え方に、数多く触れることができたのは、自分の見識を広げるためのまたとない機会となりました。私は今年度、5学年担当をしているため、2学期の「単位量あたりの大きさ」の単元では、模擬授業での学びを自校化し、実態に即した内容を研究・実践を行いたいと考えています。また、算数科の授業に限らず、教科指導の構成に関する根本的な考え方、教材研究に向きあう姿勢、心構え等、幅広く学ぶことができました。

今回の研修で得たことを今後の糧とし、研修中に耳にした「児童の夢中と学びをつなげること」「子どものやる気を引き出すために、教師として何ができるかを考えること」を常日頃より意識し、自己研鑽に努めて参ります。

今回、この研修の機会を与えてくださいましたことに厚く御礼申し上げます。